

《実践内容》

○単元目標

- ・場面についての描写をとらえ、その表現を味わいながら優れた叙述について自分の考えをまとめる。
- ・目的に応じて複数の方や文章を比べて読み効果的な読み方を工夫する。

○実践概要

○題名読み、全文通読、初発の感想を書く、初発の感想を出し合う

(初発の感想を書いた時点で、よくわからないことを小グループになって話し合う姿が始め、みんなの感想を知りたいという声があがる)

- ・やまなしって何？ クラムボンって何？
- ・やまなしって題名なのに、最後にちよっぴしか出てこない。どうして？
- ・作者は何が言いたかったんだろう。

クラムボンとやまなしに疑問が集中。

作者の思いに目が行いた子どもの意見を広げたことで、皆の疑問となる。

クラムボン、やまなしが表しているものを明らかにして、作者の作品に入れた思いを考えよう。

○ 学習問題を意識しながらもう一度本文を読む。→座席表で感想交流

- ・隣にあった『(資料)イーハトーブの夢』を読んだらなんかヒントになりそう。

子どもが持った感想の中から、今後の読みのヒントになりそうなものをチェックして皆に広げ、問題を解決していくための読みの見通しをもつ。

○ イーハトーブの夢を読む。

T：この資料から宮沢賢治さんはどんな人だと考える？

- ・優しい人 ・自然が好きな人 ・理想がある人 ・夢を描く人 …賢治の理想って何？賢治の夢って何？

○ 宮沢賢治さんの理想・夢とは何か考えよう。賢治さんの生き方について考えよう。

- ・人間も動物も植物も、互いに心を通いあうような世界、人間が人間らしい生き方ができる社会が理想。・人の役に立ちたい …賢治さんがどんな人かはわかってきた。でも理想についてはよくわからない。もっと作者について知りたい。

T：他にも資料こんな資料があります。*宮沢賢治の一生(年表)を配布『この人を見よ！歴史をつくった人々伝16 宮沢賢治 p32～p33』

- ・やまなしがかかれた前の年に、妹のトシが亡くなってる。

*トシの死についてかかれた漫画を配布『この人を見よ！歴史をつくった人々伝16 宮沢賢治 p7～p16』

同年に作られた『永訣の朝』を紹介する。

- ・死ぬ間際まで人の役に立とうとするなんてすごい人だな。・トシのことが相当大切だったんだな。・クラムボンは殺されたよってあるからクラムボンはトシのことなんじゃない？

資料と作品がつながってきた喜びから、他の資料や賢治の他の作品も自主的に探します子どもが出てきたため、宮沢賢治について自由に調べる時間も設けた。

○ クラムボンが表すものについて考えよう

- ・トシである可能性が高い ・じゃあやまなしはなんだろう？ ・五月と十二月で比べてみるといいかもしれない。

○ 五月と十二月を対比読みし、やまなしが表すものについて考えよう

- ・やまなしは賢治そのものの生き方を表している。
- ・人の役に立って死ぬこと。賢治の希望を表している。
- ・理想の死を表している。・賢治自身そのものを表している

*五月と十二月の対比に気付く子どもも出てきたのでそれを皆に広げ、それを視点に読んだ。【登場人物、情景とその雰囲気、落ちてきたもの】

○ 宮沢賢治さんの生き方について自分の考えをもとう

知的な好奇心について

「なんだか全然わからない！」と導入で抱いた疑問が、学習を深めていくにしたがって本当に知りたい問題となっていくその過程に、単なる興味・関心から知的な好奇心への変化があると考えられる。本学習では、他の資料と本作品とを照らし合わせて読んでいく所に問題解決の鍵があり、そこに気付いたり、「それではこれはどうだろう。」と次への疑問を抱いていくことがそれにあたる。他の資料の有効性に気付いた時には、教師からも資料を提示するようにした。

《子どもの様子と反省》

初めて本文を読んだ時から、子どもは少人数で自然と話し合いを始めるなど「なんかわけのわからない」作品に興味津々だった。それを、どう紐解くか。他の作品を参考にしながら作者の考え方や生き方と作品を照らし合わせていくのは、とても新鮮で多くの子どもが意欲的に学習していたと思う。ただ、読みの力にかなりの差があるため、資料と本文を頭の中で行ったり来たりすることがかなり難しい子どももいた。また「生」や「死」と言った抽象的なテーマだったため、悩みこむ子どもも多かった。だからこそ、考えを出し合って支え合いながら読み深めたとも言えるが、多様な考えが出にくく、読み終えると主題についてはほとんどの子どもが同じ考えを持つに至った。また、物語には作者の生き方や考え方、思いが込められていることに気づき、次に学習した「海の命」でもそれを実践しようとする子どもがいたのは成果の一つだと思う。

